

● 「アイヌ文化を発信する空間（愛称：ミナパ）」の供用開始について

札幌観光・北海道観光の玄関口の一つである地下鉄南北線さっぽろ駅構内において、2015 年度から整備を進めてまいりました「アイヌ文化を発信する空間」について、3 月 21 日に供用を開始します。

この空間は、札幌市アイヌ施策推進計画に定める「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向け、市民や国内外からの観光客に対する、アイヌ民族の歴史や文化に対する理解促進のきっかけづくりと、市内・道内に存在するアイヌ関連施設の情報発信を目的としています。

また、この空間の愛称については、親しみや愛着を持っていただけるよう、アイヌ語で「大勢が笑う」という意味の「ミナパ (minapa)」に決定しました。

多くの方がこの空間を訪れ、アイヌ民族の歴史や文化を身近に感じていただくことで、共生社会の実現につながることを期待しています。

1 「アイヌ文化を発信する空間」について

(1) 供用開始日時

3 月 21 日（木・祝）11：00～

(2) 所在地

札幌市営地下鉄南北線さっぽろ駅構内
（北改札と南改札の間）

(3) 面積

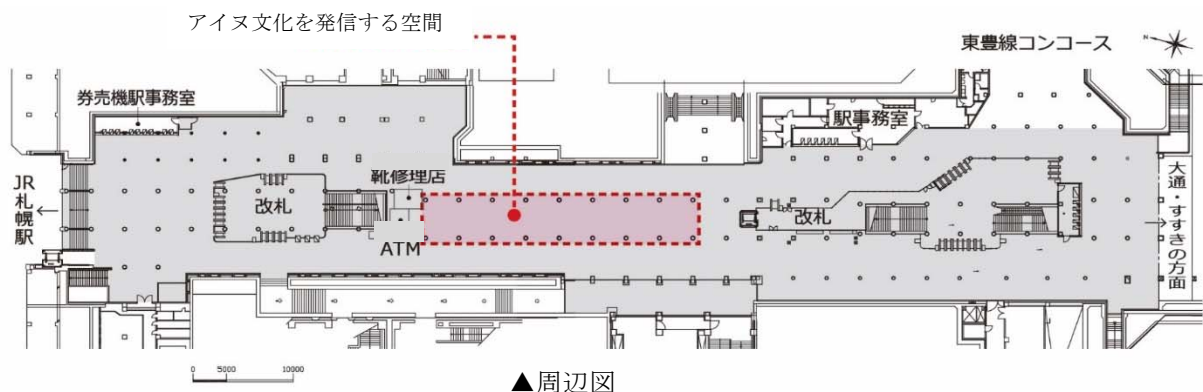
約 318 m²（約 42m×約 7.6m）

(4) 事業費

約 3 億 2000 万円



▲レイアウトイメージ図



▲周辺図

(5) 愛称

① 愛称

ミナパ (minapa)

② 意味

「大勢が笑う」という意味のアイヌ語。空間を訪れる皆さんに笑顔になってほしいという願いが込められている。

③ 決定方法

有識者等で構成された「アイヌ文化を発信する空間に係る映像系展示等制作業務企画競争実施委員会兼愛称案選定委員会」から「アイヌ語の愛称を付けること」、「札幌市で最大のアイヌ民族団体『札幌アイヌ協会』から愛称案を提案してもらうこと」との意見を踏まえ、同協会から愛称案の提案を受けた。その後、同委員会において、最も得票数が多かった愛称案から選出。

(6) 主な展示内容

① シンボルオブジェ

空間のシンボルとして、作家の貝澤 徹氏がニレの埋もれ木を用いて制作した、アイヌ文様を彫刻した大木の上に大きく羽を広げたシマフクロウ（高さ約 2.5m・幅約 2.4m・奥行き約 0.7m）のオブジェを展示。

② 4人の作家によるアート作品

さまざまな角度から鑑賞できるよう、ガラスケース 2 基を用いて展示。

③ メインシアターによる情報発信

大型 9 面マルチモニター（高さ約 2m・幅約 3.8m）を使用したメインシアターで、アイヌ語による天気予報やクイズ、フランス人作家のボリス・ラベ氏が制作したアイヌ文様アニメーションなど、アイヌ文化の魅力を発信する映像コンテンツを上映。



▲メインシアター周辺イメージ図

④ タッチパネルによる情報提供

アイヌ文化やアイヌ工芸・装身具の紹介、道内のアイヌ関連施設情報等を検索できるタッチパネル式のインフォメーションパネルを 2 基設置し、気になった施設の位置情報等を持ち出せるよう関連 WEB サイト等の QR コードを表示。

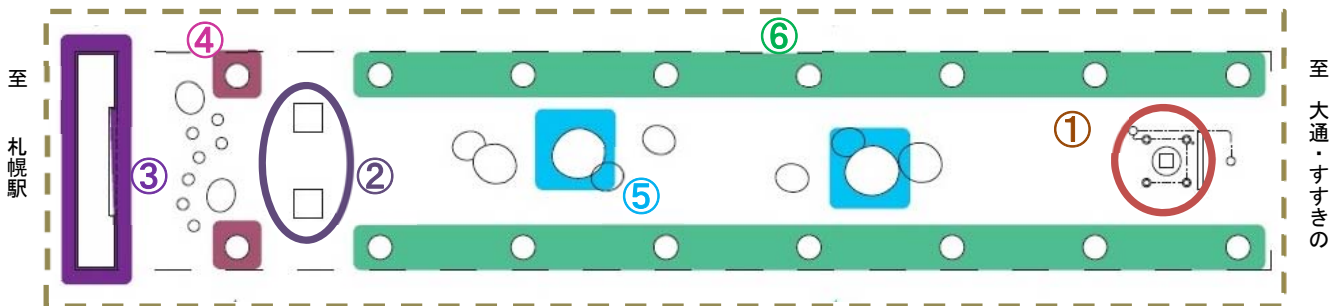
⑤ テーブルシアター

2 カ所の大テーブルに、アイヌ民族のかつての伝統的な生活を再現した CG アニメーションを投影。四季や時刻に連動してアニメーションが変化するほか、アニメーションに触れると解説を表示。

⑥ 天井、柱等の演出

天井にアイヌ文様を施したパネルを設置するほか、柱には森の雰囲気が感じられる木の装飾を施している。また、③の天気予報で紹介する道内 14 地域の気温と連動して柱の色が変化するほか、一部の柱の近くを通ると、動物の鳴き声や川の水音等、四季折々の「自然の音」が聞こえる演出などを用意。

※ ③～⑥の映像放映や光と音の演出は、午前 9 時から午後 10 時まで。



▲展示物配置図

2 オープニングセレモニーについて

(1) 日時

3 月 21 日（木・祝）10：00～11：00

(2) 場所

アイヌ文化を発信する空間

(3) 出席者

秋元市長や、札幌市アイヌ施策推進委員会委員など約 40 人

(4) 内容

秋元市長や来賓によるあいさつ、アイヌ民族による歌の披露などを行う。

問い合わせ先

市民文化局市民生活部アイヌ施策課 山田

電話：211-2277、ファクス：218-5153